

# 再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担当課： 道路局高速道路課

担当課長名： 中神 陽一

事業名	近畿自動車道 名古屋神戸線 こもの かのやまにし 菟野～亀山西 JCT	事業区分	高速自動車国道	事業主体	中日本高速道路(株)
起終点	自) 三重県三重郡菟野町大字潤田 至) 三重県亀山市安坂山町			延長	1.8 km
事業概要	新名神高速道路は第二東海自動車道と一体となって、三大都市圏を相互に結び、人の交流と物流を支える大動脈として、日本経済を牽引するとともに、東名・名神高速道路の代替機能を果たす上で不可欠な路線である。				
H17年度事業化	H6年度都市計画決定 (H一年度変更)		H23年度用地着手		H23年度工事着手
全体事業費	1,792億円	事業進捗率	8%	供用済延長	0 km
計画交通量	40,300台/日				
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 3.5 (残事業) 3.9	総費用 (残事業)/(事業全体) 1,515/1,695億円 事業費：1,353/1,532億円 維持管理費：163/163億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 5,909/5,909億円 走行時間短縮便益：5,242/5,242億円 走行経費減少便益：535/535億円 交通事故減少便益：132/132億円	基準年	平成25年
感度分析の結果	<p>【残事業】交通量： B/C=3.5~4.3 (交通量 ±10%)</p> <p>事業費： B/C=3.6~4.3 (事業費 ±10%)</p> <p>事業期間： B/C=3.7~4.0 (事業期間±1年)</p>				
事業の効果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の観光資源の活用・利便性の向上が期待される。</li> <li>当該路線の整備により新名神・東名阪の交通の分散化が図れ、渋滞や事故の削減が想定される。</li> <li>緊急輸送道路(名神高速道路)が通行止めになった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する</li> </ul>				
関係する地方公共団体等の意見	<p>・三重県知事の意見：</p> <p>近畿自動車道名古屋神戸線(菟野～亀山西JCT)について、東名、名神高速道路等とのネットワーク化によるリダンダンシーを確保し、東名阪自動車道の慢性的渋滞解消によるネットワークを強化させ、産業支援や地域の活性化に資する道路であるため、事業を継続し、早期完成されるようお願いいたします。</p>				
事業評価監視委員会の意見	<p>対応方針(原案)のとおり了承</p>				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	<p>平成20年2月に亀山JCT～草津田上IC間が開通し、新たなネットワークを形成し、これに伴い、東名阪自動車道の交通量が増加し、渋滞・事故が大幅に増加。</p>				
事業の進捗状況、残事業の内容等	<p>用地取得が70%完了し、工事は90%着手。</p>				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	<p>今後は残りの用地取得及び工事の全面展開を行う。</p>				
施設の構造や工法の変更等	<p>新技術・新工法や現地の状況変化も確認しながら積極的にコスト削減を図っていく。</p>				
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	<p>以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。</p>				
事業概要図					

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。